

校長つうしん No.10



2016.11.14

鈴木 恵一



外部の方から「校長通信は高校生を対象にしている割に漢字に読み仮名がついているのが多いですね」という疑問、ご意見がありました。思いの外、市民の方々に読まれていること自体に驚きましたが、少なくとも高校生を見限ったり甘やかしているわけではありません。理由は単純です。海外から渡日した在日高校生や大通高校への進学を考えている渡日中学生の日本語補助です。どうぞご理解ください。

ボクらにできること

日本の政治・経済、軍事問題などにさまざまな影響を及ぼしているアメリカ合衆国。

次期大統領はドナルド・トランプ氏 (Donald John Trump )

と決まりました。選挙戦では対立候補者同士の舌戦が連日わたって報道され、どのような結末を迎えるのか世界中が注目していました。国際社会が進展した今日、他国の政治・経



済が自国へどのような影響を及ぼしているかを知ることは大切です。そうした基礎を学ぶうえで高校の教科・科目は社会へ出る前の最終段階ともいえます。大通高校には、「現代社会」「政治・経済」をはじめ「ビジネス基礎」「よくわかる商業と経済」今後、開講予定の「キャリア基礎」「産業社会と人間」など、世の中のしくみや動きを学ぶことができる科目がたくさんあります。

また、日本では 2016 年から選挙権年齢が18歳に引き下げられたため、政治に関することは、これまで以上に高校在学中に理解を深めることが求められます。「主権者教育」という言葉があります。

「主権」・・・難しいですか？ 国民主権、主権在民といった使われ方がされています。権力や権利を意味していますが、あなたにも国民、市民としての様々な権利があります。他国との関係を考えてり個人の思いを政治に反映させることはなかなか難しいかもしれません。特に、選挙権がない 18 歳未満だと考えるきっかけもつかみにくいでしょう。そこで、ちょっと視点を変えてみましょう。



大通高校はユネスコスクールに加盟しています。ユネスコスクールは、ユネスコ憲章の理念を実現するため、平和や国際的な連携を實踐する学校です。世界182か国で約10,000校が加盟し、日本国内でも、「持続可能な開発のための教育」(ESD: Education for Sustainable Development)を實踐しています。平成28年10月現在で1,044校が加盟しており、1か国当たりの加盟校数としては世界最大となっています。そう、あなたもその一員なのです!

大通高校はこれまでに、グローバルなネットワークを活用して世界中の学校と交流し、生徒間・教師間で情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に若者が対処できるような取り組みの開発、発展をめざしてきました。具体的な取り組みは次の4点に集約されます。

- (1) 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- (2) 人権、民主主義の理解と促進
- (3) 異文化理解
- (4) 環境教育

次代を担うのは、高校生のあなたです。

先ほどあげた主権者という言葉を広くとらえると、あなたは、安全な環境や平和で幸せな暮らしを望む権利、異文化の者同士が理解し合い共生していく権利を主張する、まさに主権者なのです。それを行動に移していくために、いろいろなことを体験し学んでください。



実際に海外へ行くことも貴重な経験になり、グローバル(世界的)な視点を持つことが求められる一方で、自分の足もとを見つめるローカル(地元、一定地域)の見直しが求められています。さらに両者を合わせた「グローバル(global + local = glocal)」の概念が世界的に定着しつつあります。地球規模で考えながら、自分の地域で活動する……大通高校の“ミツバチプロジェクト”もそのひとつでしょう。

僕たち、私たちにできることは? と自分に問いかけてみてください。

私は、最も身近な「地域」を見つめ考えることが第一歩だと考えています。軟弱な足もとから世界へ飛び立つことはできません。現在、国は東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げるための政策を打ち出しています。地域連携に活発に取り組む大通高校です。あなたも、外へ出かける授業、イベント、キャリア探究学習など、積極的に参加してみましよう!